

# 「子ども小泉学」

主催：東北大学生態適応センター「海と田んぼからのグリーン復興プロジェクト」

E-mail: eac@g-mail.tohoku-university.jp, Tel: 022-795-3637, Fax: 022-795-3638

## 「子ども小泉学」とは

「海と田んぼからのグリーン復興プロジェクト」\*の活動の一環として気仙沼市本吉町の子どもの対象に自然体験活動、地元学を中心とした環境教育・ESDプログラム「子ども小泉学」の実践を支援しています。本プログラムは自然体験が困難な津波被災地の子供たちが森、海、川での自然体験活動やフィールドワークを通して身近な自然や生態系の豊かさ、人々の暮らしや営みに気づき、地域に対する親しみと愛着を感じ、未来に何を残したいか考えてもらうプログラムです。

\*東北大学生態適応センターが、NGO・企業団体・研究機関などと共に、生物多様性に配慮した復興を進める活動



## 「子ども小泉学」の教育フィールド

宮城県気仙沼市本吉町小泉地区は気仙沼市の南端に位置します。小泉、大谷、津谷の3地区を含む旧本吉町は、2009年に気仙沼市に編入合併されました。旧本吉町は人口10,500人（2014年2月末現在）、面積106.7km<sup>2</sup>、北上山系の支脈に囲まれ、太平洋に面する沿岸域は三陸海岸特有のリアス海岸を形成し、南三陸金華山国定公園に指定されています。

東日本大震災による大津波の襲来によって小泉地区の町全体が壊滅的な被害を受けました。しかし、津谷川右岸の外尾川河口域には海岸・河川堤防の損壊によって干潟的環境が出現し、絶滅危惧種（EN）のニホンウナギ、準絶滅危惧種（NT）のサクラマス（ヤマメ）を初めとする魚類、底生動物、鳥類、藻類などが確認されています。

小泉海岸の後背地にある久遠志神社には少彦名神（スクナヒコナ）が祀られ、境内には気仙沼を代表するヤブツバキの樹林や在来種の草本類が見られます。社は今回の津波からも辛うじて被害を免れました。リアス海岸の急斜面の崖地にある鎮守の森は幾多の自然災害から守られてきたと考えられ、人々の暮らしと減災のあり方を考える環境教育・ESDの素材であると考えます。



## 「子どものコミュニティ参画」

子どもたちが震災後に出現した干潟や鎮守の森の自然の価値に気づき、学習するプロセスを重視します。「子どものコミュニティ参画」をキーワードに子どもの視点で地域の環境や防災を考え行動するプログラムです。

具体的には、

- 12月から実施する「本吉町子ども未来会議」は①子どもの主体性を尊重し、学びのプロセスを重視、②大人はファシリテーターや助言者の役割に位置づけ、「子どものコミュニティ参画」を支援、③参加者全員が意見を出し合いながらまとめられるように子どもの発達段階に応じて役割を決めて相互に協力できる体制をめざします。
- 今年度は「第3回国連防災世界会議」（仙台市）のサイドイベント（会場：東北大学）に子どもたちが参加し、地域の自然環境や防災について検討した内容を発表します。また国際会議の開催に合わせて自主企画のエクスカージョンを行い、子どもたちが来訪者を小泉地区に案内し、地域の良さをアピールします。



## 「持続可能な社会づくり」

「子ども小泉学」が重視するもう一つのキーワードは「持続可能な社会づくり」です。2012年3月に国立教育政策研究所が作成したESDに関する最終報告書、「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究」では、「持続可能な社会づくり」を構成する概念として（1）人を取り巻く環境（自然・文化・社会・経済）に関する概念、①多様性、②相互性、③有限性、（2）人（集団・地域・社会・国など）の意思や行動に関する概念、④公平性、⑤連携性、⑥責任性が挙げられています。以下、これらの概念にしたがって私たちの活動を整理してみたいと思います。

### 導入

I. 多様性（いろいろある）：干潟や砂浜、森林に生息する多種多様な生物を観察する。



II. 相互性（関わりあっている）：地元漁師さんから干潟や磯浜に生息するハマグリ、アサリ、マガキ、モクスガニなどの生物から生態系サービスを受け、気仙沼の食文化が生まれたことを聞く。



III. 有限性（限りがある）：第一回の講座「干潟の生き物を調べてみよう！」（2014年4月19日）では準絶滅危惧種のオオノカイが発見されており、干潟の環境を保全しなければ生息地が消滅することを専門家の話から学ぶ。



IV. 公平性（一人一人大切に）：地域の生物資源は将来の世代にも残せるように今を生きている私たちが環境を保全することが重要であることを学ぶ。



### 展開

V. 連携性（力を合わせて）：地域づくりは、高齢者、障がい者、女性、子どもなど多様な視点が必要であり、少数意見を排除することなく、協働するプロセスが重要であることをワークショップなどの作業を通して理解する（2015年3月国連防災世界会議エクスカージョンにて実施予定、写真はイメージ）。



### まとめ

VI. 責任性（責任を持って）：未来への思いをそれぞれが描き、構想するなかで自分は何が出来るかを話し合い発表につなげる（2015年3月国連防災世界会議にて実施予定写真はイメージ）。



第6回「干潟の生き物を調べてみよう！」②



第7回「鎮守の森のひみつを調べてみよう！」②

### 2014年度の実施計画

日程	内容
1 4月19日	干潟の生き物を調べてみよう！①（水生昆虫、魚類、貝類編）
2 5月18日	鎮守の森のひみつを調べてみよう！①（春の植物、昆虫編）
3 6月8日	ワールドオーシャンズデー2014～「海辺の子ども環境会議」
4 7月21日	海の日は小泉海岸で遊ぼう！～造形アート、塩作りに挑戦！～
5 8月7日	小泉海岸で北と南の海の生き物の出会いを発見しよう！～貝殻アートにも挑戦！～
6 9月13日	干潟の生き物を調べてみよう！②（水生昆虫、魚類、貝類編）
7 10月11日	鎮守の森のひみつを調べてみよう！②（秋の植物、昆虫編）
8 11月16日	リアス海岸の歴史と地形を調べてみよう！
9 12月7日	干潟の生き物を調べてみよう！③（野鳥編）
10 12月14日	「本吉町子ども未来会議」準備委員会発足
11 2月中旬	「本吉町子ども未来会議」準備委員会
12 3月14日～18日	「本吉町子ども未来会議」本番、「第3回国連防災世界会議」（仙台市）のサイドイベントへの参加と小泉地区にてエクスカージョン（関連自主企画）開催

協力団体：公益財団法人日本自然保護協会・自然観察指導員連絡会みやぎ、公益財団法人日本野鳥の会宮城県支部、九州大学大学院工学研究科環境社会部門生態工学研究室、一般社団法人CEPA ジャパン、リアス・アーク美術館、小泉八幡神社